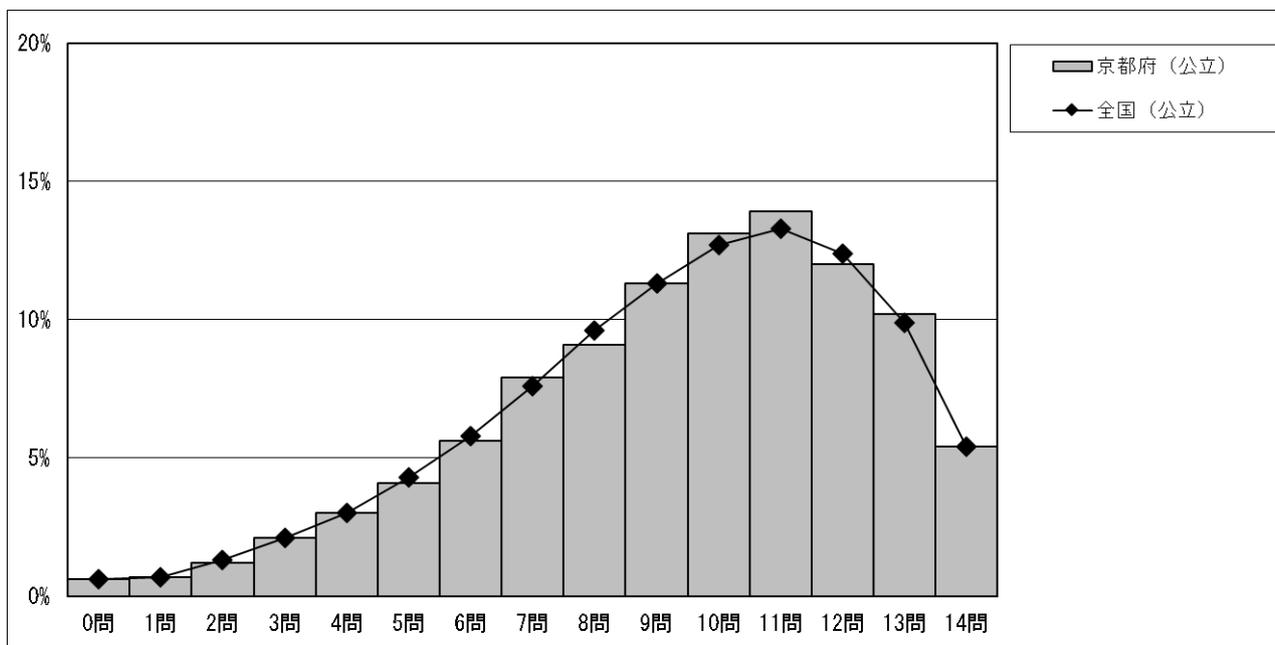


Ⅱ 京都府における国語の状況と改善の ポイント

*すべて京都市を除く京都府のデータです

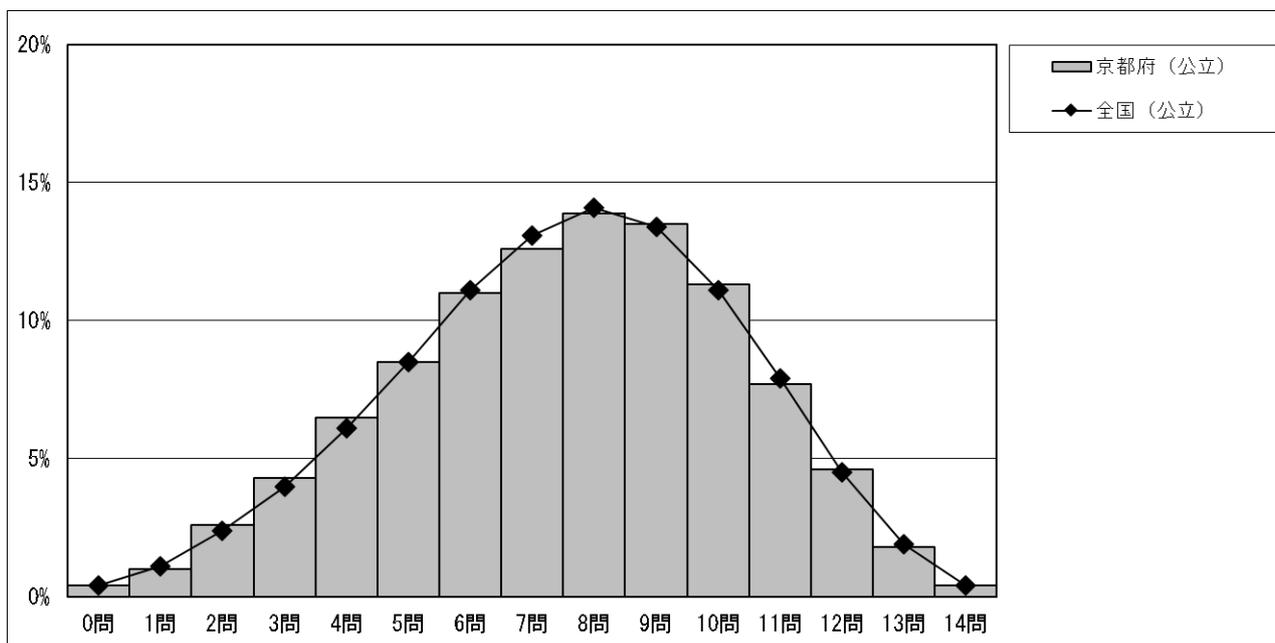
1 小学校国語の概要

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
京都府	8,777	9.4 / 14	67	10.0	3.0
全 国	936,137	9.4 / 14	66.8	10.0	3.0



2 中学校国語の概要

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
京都府	8,537	7.6 / 14	54	8.0	2.7
全 国	870,560	7.6 / 14	54.3	8.0	2.7



3 設問別調査結果 [国語]

小学校 [国語]

京都市を除く京都府一児童（公立）

集計結果

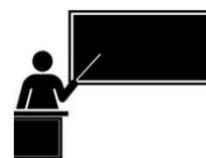
	児童数	学校数	平均正答率
京都府（公立）	8,777	194	67
全国（公立）	936,137	18,466	66.8

分類・区分別集計結果

分類	区分	平均正答率(%)		
		京都府	全国	
学習指導要領の領域等	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	78.8	76.9
		(2) 情報の扱い方に関する事項	62.6	63.1
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	81.2	81.2
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	66.2	66.3
		B 書くこと	69.3	69.5
		C 読むこと	58.1	57.5
評価の観点	知識・技能	75.4	74.5	
	思考・判断・表現	63.9	63.8	
	主体的に学習に取り組む態度			
問題形式	選択式	64.6	64.7	
	短答式	79.7	78.5	
	記述式	59.8	58.8	

◇正答率が全国平均を上回っている、もしくは同率の設問が8問ある。そのうち、5問は正答率6割を超えている。無解答率も、全ての問題において全国平均を下回っている、もしくは同率である。

◆正答率が全国平均を下回った設問が6問あり、そのうち6割を下回った設問が1問ある。



設問別集計結果

設問番号	問題の概要	領域等	正答率		無解答率	
			府(※)	全国	府	全国
1一	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	52.7	53.3	0.5	0.5
1二	【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する	情報の扱い方に関する事項	62.6	63.1	0.5	0.5
1三(1)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部アのように発言した目的として適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	70.5	71.8	0.5	0.6
1三(2)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部イのように発言した理由として適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	75.4	73.7	0.5	0.6
2一	【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する	書くこと	64.7	65.5	0.7	0.8
2二	山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する	書くこと	82.2	81.8	0.8	0.8
2三	【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く	書くこと	61.1	61.3	4.1	5.0
2四ア	【ちらし】の下線部アを、漢字を使って書き直す（このみ）	言葉の特徴や使い方に関する事項	82.0	81.6	5.9	7.2
2四イ	【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す（あつい日）	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.7	72.1	3.0	4.3
3一	【資料1】を読んで思い出した【木村さんの経験】を通して、木村さんが気付いたこととして適切なものを選択する	我が国の言語文化に関する事項	81.2	81.2	1.2	1.3
3二(1)	【木村さんのメモ】の空欄アに入る適切な言葉を【資料2】の中から書き抜く	読むこと	81.3	81.6	2.4	2.9
3二(2)	【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する	読むこと	51.6	51.3	1.9	2.4
3三(1)	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する	読むこと	40.9	40.8	2.8	3.4
3三(2)	【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く	読むこと	58.5	56.3	12.7	16.2

※府(京都市を除く)の正答率が全国の正答率より低い問題及び無解答率が全国の無解答率より高い問題についてはセルの色を で、正答率が60%未満の問題についてはセルの色を で、表示しています。

4 設問別調査結果 [国語]

中学校 [国語]

京都市を除く京都府一生徒（公立）

集計結果

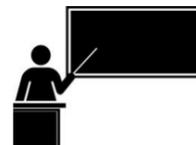
	生徒数	学校数	平均正答率
京都府（公立）	8,537	98	54
全国（公立）	870,560	9,244	54.3

分類・区分別集計結果

分類	区分	平均正答率(%)		
		京都府	全国	
学習指導要領の領域等	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	47.8	48.1
		(2) 情報の扱い方に関する事項		
		(3) 我が国の言語文化に関する事項		
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	52.4	53.2
		B 書くこと	52.4	52.8
		C 読むこと	62.9	62.3
評価の観点	知識・技能	47.8	48.1	
	思考・判断・表現	55.0	55.3	
	主体的に学習に取り組む態度			
問題形式	選択式	63.4	63.9	
	短答式	71.9	73.6	
	記述式	26.1	25.3	

◇正答率が全国平均を上回っている設問は3問である。それらは正答率6割を超えている。

◆8割の設問で、正答率が全国平均を下回っている。無解答率も半数の設問で、全国平均を上回っている。



設問別集計結果

設問番号	問題の概要	領域等	正答率		無解答率	
			府(※)	全国	府	全国
1一	変換した漢字として適切なものを選択する（かいしん）	言葉の特徴や使い方に関する事項	34.0	35.2	0.2	0.2
1二	ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する	書くこと	82.7	82.5	0.3	0.2
1三	ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する	書くこと	61.9	63.3	0.4	0.5
1四	ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く	書くこと	31.5	31.0	1.2	1.6
2一	スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	37.5	38.1	0.4	0.3
2二	聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	76.9	77.9	0.4	0.3
2三	「話の順序を入れ替えた方がよい」という助言の意図を説明したものとして適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	72.9	73.4	0.7	0.6
2四	発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く	話すこと・聞くこと	22.4	23.2	2.7	4.0
3一	物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する	読むこと	79.9	80.0	0.6	0.5
3二	「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く	読むこと	90.5	89.9	3.3	4.0
3三	「しきりと」の意味として適切なものを選択する	言葉の特徴や使い方に関する事項	61.7	61.0	0.9	0.8
3四	「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとどのように考えた理由を書く	読むこと	18.2	17.1	24.1	28.1
4一	手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見つけて修正する	書くこと	53.2	57.3	36.5	33.5
4二	手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見つけて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く	書くこと	32.4	30.1	16.9	19.1

※府(京都市を除く)の正答率が全国の正答率より低い問題及び無解答率が全国の無解答率より高い問題についてはセルの色を■で、正答率が60%未満の問題についてはセルの色を■で、表示しています

5 小学校国語科の授業改善のポイント

小学校 言葉の特徴や使い方に関する事項
情報の扱い方に関する事項
我が国の言語文化に関する事項

問題〔1二、2四ア、2四イ、
3一〕

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる

〔1二〕(府の正答率 62.6%、全国の正答率 63.1%)

○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる(あつい→暑い)

〔2四イ〕(府の正答率 75.7%、全国の正答率 72.1%)

◎学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる(このみ→好み)

〔2四ア〕(府の正答率 82.0%、全国の正答率 81.6%)

◎時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができる

〔3一〕(府の正答率 81.2%、全国の正答率 81.2%)

解説

・〔1二〕について、インタビューの流れの記録として適切な図を選ぶ問題である。図に整理して記録したものの中から、話の内容や記録の説明に合致していない選択肢を排除することはできている。一方で、インタビューの流れの全体像を捉えることができず、「質問を一つに絞った」と判断してしまっている児童が 19.3%存在する。言語活動を充実させていく中で、目的や意図に沿って、線や囲みなど図示することによって自分なりに情報を整理できるように指導していくことが重要である。また「話す・聞く」、「書く」、「読む」といったあらゆる活動において目的を明確化し、活動それ自体が目的にならないよう留意する必要がある。

<授業改善のポイント>

○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う

目的や意図に沿って、線や囲みなど図示することによって自分なりに情報を整理できるようにすることが重要である。また、第5学年及び第6学年の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A 話すこと・聞くこと」の(1)「ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。」との関連を図り、指導の効果を高めることが考えられる。情報の整理の仕方については、様々な方法があり、年間を通じて複数回、意図的に指導することも大切である。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

▲目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる

〔1ー〕(府の正答率 52.7%、全国の正答率 53.3%)

○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる

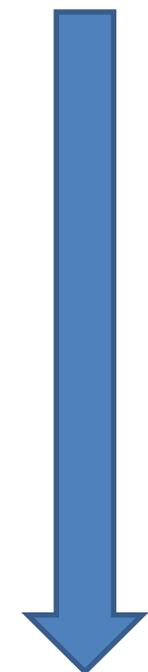
〔1三(1)〕(府の正答率 70.5%、全国の正答率 71.8%)

○話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる

〔1三(2)〕(府の正答率 75.4%、全国の正答率 73.7%)

解説

- ・〔1三(2)〕について、話者の発言の内容を捉え、それぞれを比較してまとめることはできている。
- ・〔1ー〕について、話者が複数の質問を関連付けていると捉えることはできているが、聞きたいことを相手から引き出そうとしていると捉えることができていないと考えられる児童が 26.9%いる。また〔1三(1)〕について、自分が知りたいことの具体例を引き出そうとしている話者が、相手が伝えたいことの内容を明確にしようとしていると間違えて捉えていると考えられる児童が 15.7%いる。学習指導に当たっては、あらかじめ準備された原稿を読み合う類の活動にとどまらず、実際に応答をする場面において、自分の質問に対する相手の答えを受け止め、その答えに応じて即興的に反応できるようにすることが求められる。自分が知りたいことや疑問に思っていることを整理したり、相手の答えを予想したりするなどの準備をした上で行うインタビュー形式の「話す」「聞く」活動を充実させる必要がある。



<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和7年度)

URL: https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25plang_idea_01.pdf#page=10

○話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる

話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめるためには、話し手の考えと自分の考えとを比較して共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、自分の考えをまとめることが大切である。学習指導に当たっては、自分が知りたい内容に関する言葉を取り上げ、更に質問しながら理解を深め、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめていけるようにすることが大切である。

○ ①の学習の流れに沿って、課題に応じた三つの場面(集めた材料を分類する場面、伝え合う内容を検討する場面、インタビューをする場面)を取り上げて、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することについての指導事例を紹介している。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

○書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる

〔2一〕(府の正答率 64.7%、全国の正答率 65.5%)

◎図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる

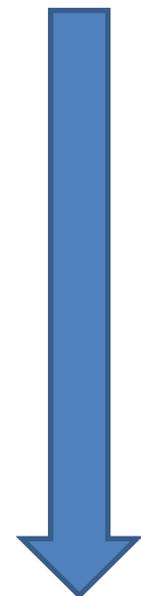
〔2二〕(府の正答率 82.2%、全国の正答率 81.8%)

○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる

〔2三〕(府の正答率 61.1%、全国の正答率 61.3%)

解説

- ・〔2一〕については、【解答類型4】は、山田さんが、読み手の目的に応じて読めるように、使い方の手順に沿って書いていると捉えており、伝えたいことの中心を明確にして、内容のまとまりごとに分けて書いていると捉えることができていると認められる児童が 20.4%いる。低学年から系統的に指導し、内容のまとまりや段落相互の関係、文章の構成といった事柄に着目しながら読んだり書いたりすることができるようにすることが大切である。
- ・〔2二〕については、図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができている。
- ・〔2三〕については、〈本を読んで分かったこと〉から言葉や文を取り上げて書いているものの、指定された〈使ってみて分かったこと〉から言葉や文を取り上げて書いていない児童が 12.8%いる。



<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和7年度)

URL : https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25plang_idea_02.pdf#page=15

○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する

目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするためには、書く目的や意図を明確にした上で、詳しく書く必要がある場合や簡単に書いた方が効果的である場合などを判断しながら書き表し方を工夫することが大切である。学習指導に当たっては、文章を書く目的や意図に応じて伝えたいことを明確にすることが重要である。友達と話し合い、読み手の立場から「どこを詳しくすれば目的や意図に応じた文章になるのか」ということを中心にアドバイスし合う場面を設定すると効果的である。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

◎時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる

〔3二（1）〕（府の正答率 81.3%、全国の正答率 81.6%）

▲事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる

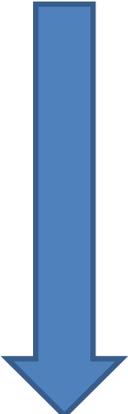
〔3二（2）〕（府の正答率 51.6%、全国の正答率 51.3%）

▲目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる

〔3三（1）〕（府の正答率 40.9%、全国の正答率 40.8%）

▲目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる

〔3三（2）〕（府の正答率 58.5%、全国の正答率 56.3%）



解説

- ・〔3二（1）〕では、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができず、適切な言葉を書き抜くことができなかった児童が 16.2%いる。時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えるためには、どのような順序によって説明されているかを考えながら文章の構造を大づかみに捉え、それを手掛かりに内容を正確に理解できるよう指導することが重要である。
- ・〔3三（1）〕〔3三（2）〕では、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができている。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和7年度)

URL : https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25plang_idea_03.pdf#page=13

○文章全体の構成を捉えて要旨を把握する

書き手がどのような事実を理由や事例として挙げているかを書き出し、書き手の考えを自分の言葉で短くまとめるなどして、内容の中心となる事柄などを捉えることができるよう指導することが必要である。その際、文章の各部分だけを取り上げるのではなく、全体を通してどのように構成されているのかを正確に捉えることができるように指導することが重要である。

○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける

文章中に用いられている図表などが文章のどの部分と結び付くのかを明らかにしたり、文章と図表などの関係を捉えて読んだりすることで、内容についてより深く理解したり解釈したりすることができるよう指導することが大切である。その際、図表からも必要な情報を見付けたり、見付けた情報を言葉に表したりすることが求められる。

6 中学校国語科の授業改善のポイント

中学校 言葉の特徴や使い方に関する事項
情報の扱い方に関する事項
我が国の言語文化に関する事項

問題

〔1ー〕〔3三〕

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

▲文脈に即して漢字を正しく使うことができる

〔1ー〕(府の正答率 34.0%、全国の正答率 35.2%)

○事象や行為を表す語彙について理解している

〔3三〕(府の正答率 61.7%、全国の正答率 61.0%)

解説

- ・〔1ー〕について、正答率 34.0%と低い。文脈から意味を捉えることができなかつたか、意味を捉えることはできたものの、「会心」、「改心」、「改新」のいずれを使うのか、正しく判断して選ぶことができなかつたものと考えられる。文脈に即して漢字を正しく使うことに課題がある。
- ・〔3三〕について、「しきりと」という語句の意味についてはおおむね理解していることが分かる。

<授業改善のポイント>

○ 〔1ー〕について、漢字に変換することが難しかった生徒もいると思われるが、「会心の出来」という言葉そのものを知らなかつた生徒も一定数存在すると考えられる。学習指導要領では、言葉の特徴や使い方に関する事項として、事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることを求めている。系統的に語彙の量を増しながら、話や文章の中で使うことを通じて「使用語彙」へと昇華させていくことが大切である。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

- ▲資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる
〔2一〕(府の正答率 37.5%、全国の正答率 38.1%)
- 相手の反応を踏まえながら自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる
〔2二〕(府の正答率 76.9%、全国の正答率 77.9%)
- 自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができる
〔2三〕(府の正答率 72.9%、全国の正答率 73.4%)
- ▲資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる
〔2四〕(府の正答率 22.4%、全国の正答率 23.2%)



解説

- ・「話すこと・聞くこと」の領域の平均正答率は全体を通じて低い傾向がある。
- ・特に〔2一〕及び〔2二〕において、話者の発言の仕方や、話者が発言内容を選択した理由について読み取れていない生徒が多い。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和7年度)

URL : https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25mlang_idea_02.pdf#page=11

○資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する

紹介や報告、説明や提案、主張など、話し手がある程度まとまった話をし、それを聞いて、聞き手が質問や意見、助言、評価などを述べるといった、目的をもった言語活動を設定することが大切である。また、こうした活動を行う際には、何のために、誰を対象に、どのような状況で話すのかを具体的に考え、設定した話題や検討した内容が、それらに合っているかどうかを判断することも意識して指導する必要がある。また、自分の立場や考えが明確になるように話の構成を考えることを通して、自分の考えを形成することや、それが聞き手に分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるよう指導することも重要である。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

◎目的に依じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる

〔1二〕(府の正答率 82.7%、全国の正答率 82.5%)

○書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考慮することができる

〔1三〕(府の正答率 61.9%、全国の正答率 63.3%)

▲自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができる

〔1四〕(府の正答率 31.5%、全国の正答率 31.0%)

▲読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができる

〔4二〕(府の正答率 32.4%、全国の正答率 30.1%)

▲読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができる

〔4一〕(府の正答率 53.2%、全国の正答率 57.3%)

解説

- ・〔1二〕、〔1四〕、〔4二〕について、文章を書く際に伝えたいことの中心を定めたり、それを伝えるために用いる適切な語句を選んだりすることは比較的正しくできている。
- ・〔1三〕では、全国比で正答率が低く、小さくない課題がある。文章の構成や展開について、その意図を読み取ることに課題がみられる。「話す・聞く」、「書く」、「読む」といったあらゆる言語活動を充実させていく中で、活動の目的を明確化し、系統的に資質・能力を育成していく必要がある。
- ・〔4一〕は、「読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整える」という「書くこと」に関連付けた出題であるが、問題としては「間違っていて使われているものを正しいものに直す」という漢字の知識を問うものになっている。字を知っていて読めるだけでなく「文の中で正しく使える」ことが求められる。国語に限らず、日常生活全体を通じて既習の漢字を積極的に「正しく」「使う」ことを意識して指導することが大切である。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和7年度)

URL : https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25mlang_idea_01.pdf#page=11

○自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く

自分の考えが伝わる文章にするためには、意見とそれを支える根拠を明確にして書くことが重要である。根拠を明確にするためには、まず、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめることが必要である。その際に、接続する語句や指示する語句を用いるなどして、伝えたい事柄とその根拠とを適切に結び付けたり、事実や事柄を具体的に示したりして書くよう指導することが大切である。他教科等の学習との関連を図り、生徒や学校の実態に応じて様々な話題を取り上げて書くことも考えられる。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

○表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる

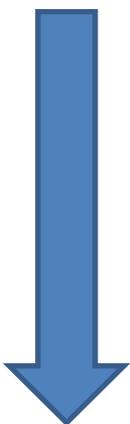
〔3一〕(府の正答率 79.9%、全国の正答率 80.0%)

◎文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができる

〔3二〕(府の正答率 90.5%、全国の正答率 89.9%)

▲文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる

〔3四〕(府の正答率 18.2%、全国の正答率 17.1%)



解説

- ・「読むこと」の領域の平均正答率は全国平均と概ね同程度である。
- ・〔3四〕物語の展開とその効果について読み取って書く問題については正答率が18.2%と低く、無解答率も24.1%となっている。特に全体の36.7%が物語の内容を取り上げて記述はできているものの、本問で着目されている「文章の展開」を踏まえて書くことができていない。文章に書かれた内容を理解する力はあるが、書き手の意図を読み取ったり、構成や展開の効果を考えたりすることについては小さい課題がある。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和7年度)

URL : https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25mlang_idea_03.pdf#page=9

○文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える

文学的な文章の構成や展開について考えるためには、作品の場面を捉えてその構成を理解するだけでなく、登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉え、その展開を把握することが求められる。ここでは、島崎藤村の「二人の兄弟」を読み、構成や展開について考える活動の事例が紹介されている。文章全体や部分における構成や展開を把握した上で、なぜそのような構成や展開になっているのかを意識しながら読むことについて指導することが大切である。